



すっかり秋が深まり、風の冷たさなど、少しずつ冬の訪れを感じるようになってきました。落ち葉やどんぐり、まつぼっくりなど、秋は子どもたちにとって魅力的な自然がいっぱいです。寒くなっていく季節に負けずに、外でもたくさん遊びましょう。

風邪が流行る季節です

寒くなり空気が乾燥すると、くしゃみや咳などでウイルスは遠くまで拡散しやすくなります。また、鼻や喉の動きも寒さと乾燥で鈍くなるため、感染に対する防御反応が弱まります。そのため、風邪は冬に流行ることが多いのです。新型コロナウイルス感染症も同様の傾向があるとみられています。インフルエンザも流行する季節ですので、より一層気を引き締めて、感染症対策を続けていきましょう。基本は「手洗い」や「咳エチケット」です。

新しい生活様式の効果、出ています！

夏に流行する感染症について、今年の感染者数がこの10年で最少となっています。

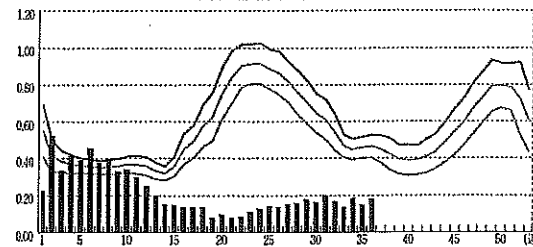
右のグラフは、今年の年始から週ごとの感染者数をまとめたものです。折れ線グラフが例年の傾向、棒グラフが今年の感染者数を示しています。3月ごろ(10週ごろ)までは例年と同様の感染者数でしたが、それ以降は例年よりもはるかに少なくなっています。3月は学校が休校になった時期です。

緊急事態宣言解除後も感染者数は少ない経過であることから、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って行ってきた「新しい生活様式」が、他の感染症に対しても効果が出ていると考えられます。

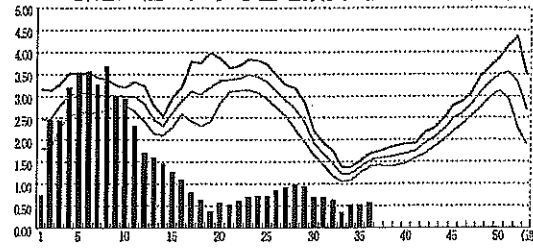
以前までの生活と比べると、新しい生活様式は色々と制限がかかる我慢の生活を感じる方も多いかと思いますが、このような効果が出ています。このまま継続すれば、インフルエンザの流行も例年より抑えられるかもしれません。自分と周りの人たちの健康を守るために、継続して新しい生活様式を実践していきましょう。



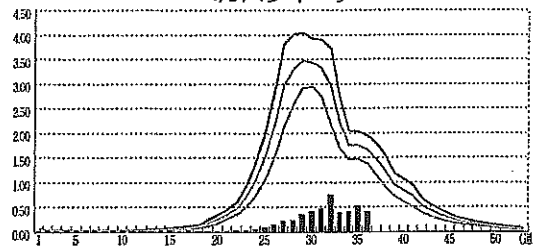
咽頭結膜熱(プール熱)



A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎(溶連菌感染症)



ヘルパンギーナ



感染症発生動向調査週報(国立感染症研究所)より引用、一部修正

インフルエンザの予防接種

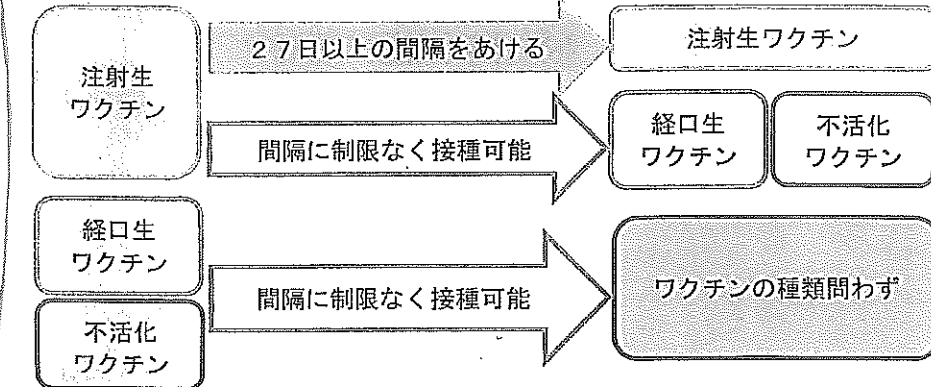
インフルエンザワクチン接種時期となりました。インフルエンザは合併症を起こしやすく、肺炎や気管支炎などを引き起こすことがあるので、免疫力が弱い乳幼児などは注意が必要です。インフルエンザワクチンは有料ですが(65歳以上は定期予防接種となり一部助成あり)、重症化を予防することが期待できるため、できれば接種することをお勧めします。厚生労働省は小学2年生までのお子さんや妊婦などに早めの接種を勧めています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響でワクチンの需要が高まると言われています。接種希望の方はお早めに医療機関にご相談ください。

予防接種の接種間隔のルールが変更されました

9月までは不活化ワクチンの接種後6日以上、生ワクチンの接種後27日以上の間隔をおかなければ、次のワクチン接種ができませんでした。10月からは以下のルールになります。

同じ種類のワクチンの場合：ワクチンごとに決められた間隔を守る。

異なる種類のワクチンの場合：以下の図の通り。



※注射生ワクチン…麻しん風しん混合(MR)、水痘、BCG・おたふくかぜ など
経口生ワクチン…ロタウイルス など
不活化ワクチン…ヒブ・小児用肺炎球菌・B型肝炎・4種混合・日本脳炎・季節性インフルエンザ など



11月の乳幼児健診(電話：0797-86-0056)

健診対象者には健康センターからお知らせが郵送されます。すべての健診が予約制です。健診のお知らせが届いたら内容をよくご確認ください、それぞれの実施場所に予約をしてください。

10月末時点での情報を記載しています。新型コロナウイルス感染状況により、変更する可能性があります。最新の情報については市ホームページ(乳幼児の健診について ID 1000531)をご覧ください。